

レプトスピラ症の発生動向（沖縄県 2016年）

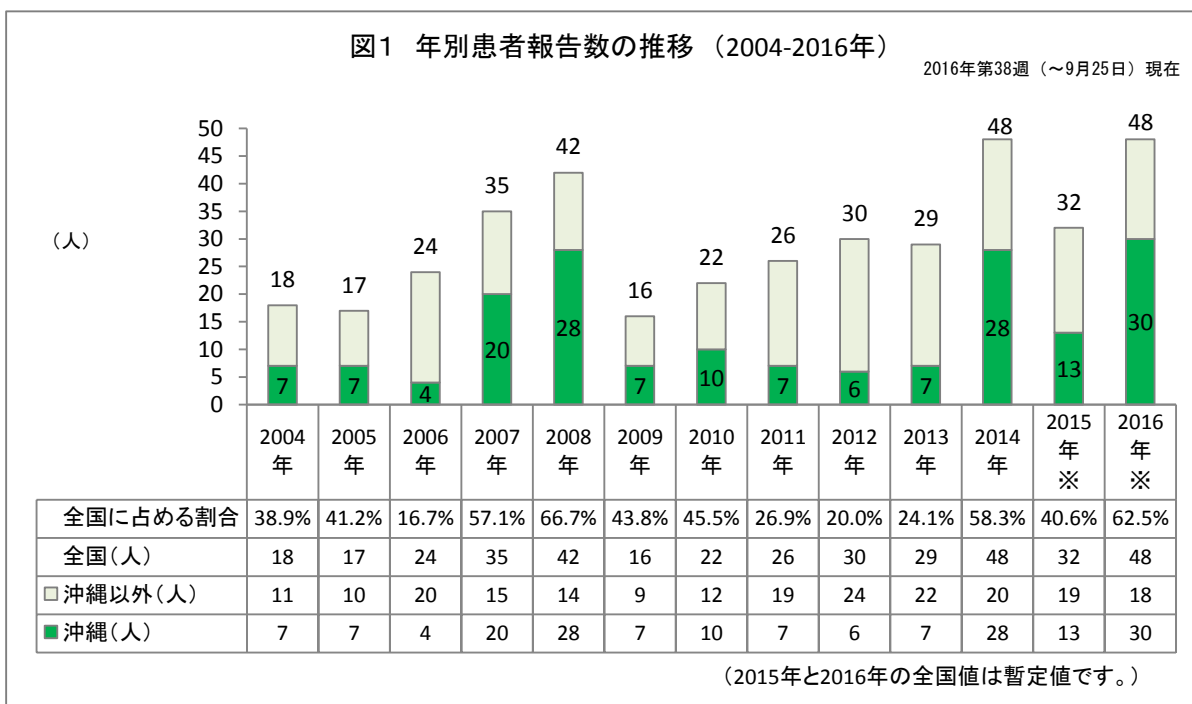
レプトスピラ症は、病原性レプトスピラによって引き起こされる人獣共通感染症です。病原性レプトスピラは、ネズミやマングースなどげっ歯類を中心とした多くの哺乳動物の腎臓にあり、尿中へと排出されます。ヒトは保菌動物の尿に汚染された水や土壌などから、傷口や粘膜を通して感染します。感染の3～14日後に、発熱や頭痛、目の充血、筋肉痛などのカゼ症状や、黄疸や腎不全を伴う症状を呈することがあります。

1 年別報告数の推移（2004年～2016年）

沖縄県のレプトスピラ症の報告は、年間4～28人で推移してきましたが、2016年の報告数は現時点で30人と、統計を取り始めた2004年以降、最多となっています。

また、沖縄県の報告数は全国の約6割を占めています。

過去には、県外からの観光客が旅行から戻った後に、診断される例も報告されています。



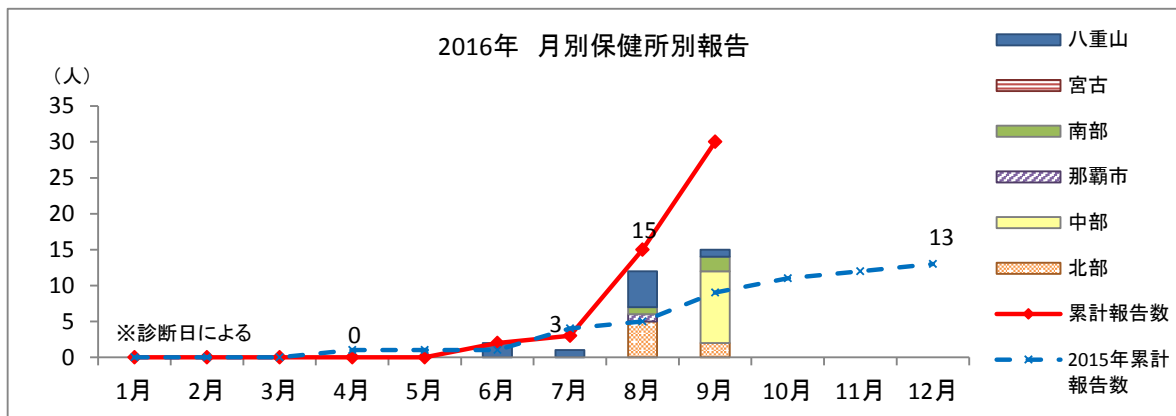
レプトスピラ症は2003年11月施行の感染症法一部改正により、4類感染症に指定されました。

2 月別届出受理保健所別報告数（2016年）

・例年、夏から秋にかけて多くなります。

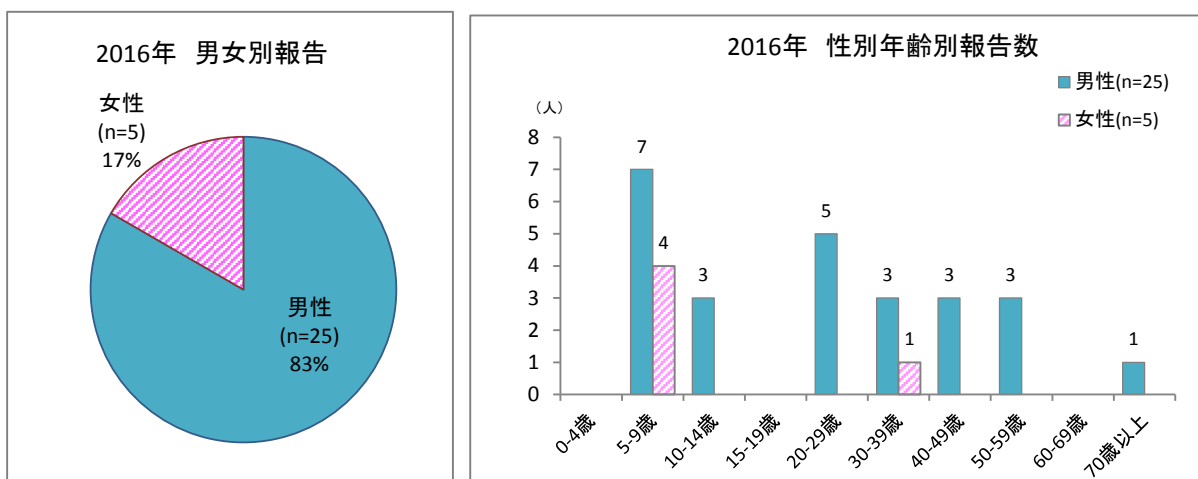
2015年は、4月に初めての報告があり、7月から12月にかけて毎月報告がありました。

2016年は、8月末時点で昨年の報告数(13人)を超え、9月も新たに15人が報告されています。



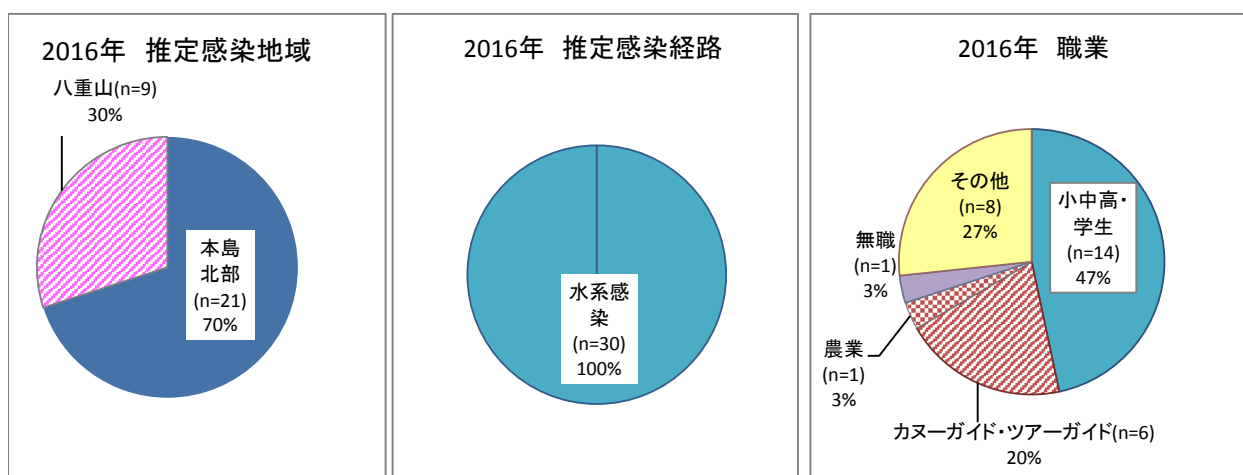
3 性別年齢別（2016年）

男性が8割以上を占めます。
年齢別では、半数近くが10歳前後（5歳から14歳）となっています。

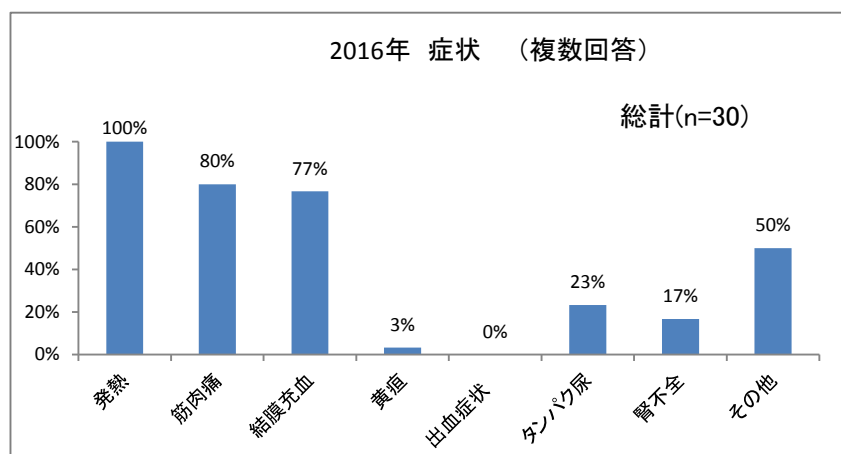


4 推定感染経路・感染原因（2016年）

推定感染地域は、本島北部が7割、八重山が3割です。
推定感染経路は全てが水系感染で、滝を含む河川でのレジャー活動を通じた感染が疑われる例が多くを占め、一部農作業を通じた感染が疑われる事例もみられました。



5 症状（2016年）



発熱は全症例にみられ、以下、筋肉痛（80%）、角膜充血（77%）と続いています。「その他」では、嘔吐、頭痛、リンパ節腫脹などが見られます。

6 参考資料

※レプトスピラ症は四類感染症です。

診断した医師は直ちに最寄りの保健所へ届け出てください(全数報告です)。

<速報> 沖縄県八重山地域で発生したレプトスピラ症 2014年8月(IASR)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/id/803-disease-based/ra/leptospirosis/idsc/iasr-news/4940-pr4157.html>

2013年に沖縄県西表島で発生したレプトスピラ症 (IASR Vol. 35 p. 14-15: 2014年1月号)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/id/1057-disease-based/ra/leptospirosis/idsc/iasr-in/4260-kj4071.html>

沖縄県におけるレプトスピラ症患者の発生状況、1988～2007年(Vol. 29 p. 10-12: 2008年1月号)

<http://idsc.nih.go.jp/iasr/29/335/dj3354.html>

1999年夏季に沖縄県八重山地域で多発したレプトスピラ症 (IASR Vol.21 p 165-166:2000)

<http://idsc.nih.go.jp/iasr/21/246/dj2463.html>